

古代日本の大陸文化を訪ねて—明大アジア史専攻のフィールドワーク—
アジア史専攻研究室

日時：9月18日（金）—20日（日）

目的：関西（京都・奈良）の東アジア史関係の遺跡・文物の調査見学を通じて、アジア史への知見を深め、あわせて臨地講演ならびに相互の交流・ディスカッション。

参加者：アジア史専攻（学部生 11 名）、アジア史専修院生（2 名）・教員 2 名の計 15 名
引率：氣賀澤保規（教員・アジア史専攻）、江川式部（教員・アジア史専攻）

日程：

9月18日（金） 午前 10 時 京都駅前集合(京都タワービル前) 1日京都市内
龍谷大学：大谷探検隊将来の西域関係文書の見学（龍谷大学・木田知生教授の案内）
東寺：804年に遣唐使に随行し、長安・青龍寺で密教を学んだ空海の寺。
泉涌寺：楊貴妃観音の寺（宋代の作品。日本人の楊貴妃観や思いを代弁する対象）。
→祇園・八坂神社→知恩院→平安神宮→藤井有隣館
知恩院：法然の寺。本堂で一服し、仏教・浄土宗の雰囲気に入る。
平安神宮：唐長安を模した平安京の大内裏（大極殿）の形状を確認する。
藤井有隣館：中国関係の宝物（碑刻・その他）の見学。普段は未公開。
→このあと、妙心寺（禅宗・臨済宗大本山）へ。途中で夕食。
寺内の塔頭・東林院（禅寺）に宿泊。禅寺の生活にふれる。夜、ミーティング。

9月19日（土） 奈良県奈良市とその周辺
東林院で朝食後、京都駅から近鉄京都線で奈良・西大寺下車。
平城京址：奈良・西大寺。来年、平城京建都 1300 年の舞台。遺構発掘、大極殿などを見学。奈良国立文化財研究所の管轄。
奈良公園で鹿と戯れながら昼食。
奈良国立博物館：中国青銅器＝坂本コレクション、仏教美術名品などの見学。
東大寺：大仏殿（大仏の原型は洛陽・龍門石窟の奉先寺大仏、則天武后時造営）
→正倉院（奈良朝・聖武天皇の宝物庫、シルクロード終着点）を遠望→二月堂
→このあと電車で南下し橿原市へ。千輪荘（橿原市サイクリングターミナル）宿泊。
夕食・入浴後、ミーティング。

9月20日（日） 奈良県橿原市・明日香村
朝食後、周辺の古墳遺跡を経て、橿原神宮前駅へ、レンタサイクルで行動開始。
橿原考古学研究所附属博物館：一帯から出た古代日本の考古学成果の見学。
藤原京遺跡：朝堂址、朱雀門址。日本最初の都城（唐の長安に範を取る）。
飛鳥資料館：飛鳥古代遺跡全容の確認（館員の杉山二郎先生の説明）。
祭祀石造遺跡（酒船石・亀形石像物など）やキトラ古墳壁画を館内で見学調査。
飛鳥寺：蘇我馬子造営、蘇我氏の氏寺、日本最初の仏寺で飛鳥仏の所在地。
そのあと初秋の明日香路を駆け抜け、午後 4 時、橿原神宮駅前にて現地解散。

アジア史専攻フィールドワーク「古代日本の大陸文化を訪ねて」の感想

2年 吉田 亜有美

歴史学を勉強する上で一番大切なのは体力、ということが、今回のフィールドワークで私が一番に学んだことです。一步一步踏み締めなければ、歴史へは近づけないのだと痛感しました。

また、その歴史のあった現場に立つということの素晴らしさも知りました。何もない平野にも以前には壮大な建物があつた、たくさんの人がいた。今の大地に立ちながら過去のその景色に想像を膨らませることが、歴史のおもしろさなのだと思います。これは、ただ史料と向き合うだけではきっと得られないものでしょう。

私は、平城京の跡地を訪れて見た朱雀門と再建途中の大極殿が一番印象に残っています。本当に単純な気持ちで、なんて広いだろう、大きいだろうと思いました。数字で表されたメートルより、資料集の上空写真より、実際に現場に立つことが一番その大きさを実感できます。

今回このフィールドワークに参加し、改めて歴史を見つめ直すということがどんなことなのか実感しました。とても疲れましたが、充実した楽しい三日間でした。

4年 古川 保 ー平城京・藤原京跡に立って考えたことー

今から約1300年前に建設された両京城跡（平城京・藤原京）に立ったときに、私の胸に去来したものは芭蕉の詠んだ「・・つわものどもが夢の跡」のような無常感ではなかった。それは新生日本の建設に携わった若き官僚や帰国留学生達の、胸にたぎったであろう高揚感への共感であった。

中華の高度な文明に触れた者達にとってなすべきことは山ほどあつたと思われる。王都の建設、律令の制定、史書の編纂、貨幣の鑄造等皆新国家の建設にとって欠かすことのできない事柄である。それを学ぶために留学生達は国家のために身を捧げ、危険を承知で唐の国に渡り心血を注いで新しきものを学んだのであろう。

我々の責務はこの様な事実を後世に言い伝えていく事であり、そのためにはこれらの史跡を重要な遺産として守っていくことではないだろうか。

4年 齋藤芳宏

- ①龍谷大学図書館所蔵の大谷探検隊が持ち帰ったトルファンにおける剥落した土地賃借に関する紙の出土品、そこから歴史の解明が始まることを理解した。
- ②有隣館においては、民間の博物館として集めた収蔵物の多さ、歴史的価値の高さ、莫大な資金と労力。そこから藤井氏の中国美術品にかけた情熱を感じた。特に、科挙における不正行為の衣服に記した文字の資料に、これまで写真でしか見たことがなかったものがまさか当館で見られるとは、と思わず感激した。
- ③藤原京、平城京、平安京と、日本が律令国家として形成された過程を目のあたりし、壮大な計画の下に建設され、いま修復・再建された建築物に、当時の古代びとの建国に対する思いを感じると同時に、中国が日本に与えた量り知れない影響を感じた。
- ④歴史研究は、ある現象・事象に関する疑問の提起、それをうけた問題解決のための地道な努力や姿勢や信念が重要であること（例えばトルファン・剥落紙）。歴史を探查・実証することの困難さと楽しさを、今回のフィールドワークで改めて感じました。

3年 織田龍郎

9/18～9/20まで、関西フィールドワークに参加させていただきました。今回は、歩いて実物の貴重な遺跡や建物や文献に触れることができ、普段の座学では経験することのできない体験ができました。

訪れた場所はどれも印象的でしたが、私は特に藤井有隣館が印象に残っています（9月18日）。藤井有隣館は、殷代以降の絵画や、仏像、青銅器など国宝級の遺産を数多く所蔵していました。普段は未公開の資料館で、実物の史料に触れることができました。

中国からの視点・日本からの視点の両面から見ることができ、実りのあるフィールドワークとなりました。次回もあるならば、参加したいと思います。

2年 橋和奏

今回のフィールドワークでは、東大寺や奈良国立博物館を再訪問できたことが印象に残りました。

高校の修学旅行の時よりも、自分のペースで時間をかけて回れたので、ただ鑑賞するだけでなく、文化史の知識を深められたように思います。ここで得た知識を、後に個人的に行った別の美術館で結びつけることができ、行動的に学ぶことの重要性を実感できました。

これからも、文献で知識を得るだけでなく、自分の足で回って知らない文物を目で確かめるという方法で学び続けて行きたいです。

3年 田中由起子

今回のフィールドワークで特に印象に残ったのは、龍谷大学で見せていただいたアスターナの田籍文書、藤井有隣館の展示物の数々です。

中でもアスターナの田籍文書は、後期の文献購読で購読予定である敦煌の手實を、夏休み中に後期授業に向けて読み進めていたところだったため、貴重な実物を、いいタイミングで見られた嬉しさと共に感動しました。今後、手實を読みすすめる中で、どんなものに、どのように書かれているかなどがイメージしやすく、現実感を持つことができると思います。また、その書式、田籍文書と判明した経緯、既に田籍文書としての役割を終えて絵の下地に使われていた事実など、非常に興味深く見ました。

大学院 伊藤希実

今回、学部生に混じって関西フィールドワークに参加させていただきました。その中でも特に龍谷大学でトルファン文書をガラス越しではなく直に見せていただいたこと、藤井有隣館を訪れたことがとても印象に残っています。また以前に訪れたことがあるお寺や遺跡でも、再度訪れることで違った感動を覚えました。

今までとは異なる見方や新しい発見が可能である、遺物や遺跡をその目で見る大切さをあらためて実感した調査でした。

2年 星ひとみ

貴重な資料を間近で見ることができ、またお話をしてくださった研究員の方々からは遺跡や文物に関する説明だけではなく、現在それぞれの分野においてどのような新しい動きがあるのかなど様々なことを聞くことができました。

個人的な旅行などでは決して見ることや知ることのできないようなことに触れ、自分の

知識と繋げて考える楽しさを感じましたし、またそれらの知識がより明確なビジョンを持ったものになりました。特に飛鳥資料館で館長さんから伺った文化財の保存と展示を両立することの難しさや現在問題視されている点に関するお話がとても興味深かったです。

また今回の合宿で初めてお会いした先輩方とも楽しくお話でき、色々な意見を聞いてよかったです。

2年 森本創

今回のフィールドワークでは、体感の大切さを学びました。物に接することで、書物からは得られない着想や感動を知り、史料だけでなく資料まで含めた研究の大切さを多少なりとも実感できたことは大きな喜びでした。

また、藤原京跡や飛鳥寺など奈良の土地を自転車で踏破することにより、その地理や風土を実感できたことも新鮮な体験でした。歴史の舞台を知ることで、知識がぐっと生き生きし始めたように感じました。またフィールドワークの意義を学び、中国という土地への想いが一層深まりました。

2年 鈴木直紀

京都や奈良は何度か行ったことのある地ですが、今回の旅行では今までと違った視点から見学することができました。今まで「純日本」と考えていた寺社の風景が、実はアジアとリンクしていたことにも気付かされ、アジア史を研究する者としての視野を広げられたと思っています。

また、龍谷大学や藤井有鄰館での資料見学も、本当に貴重な体験になりました。今まで本や資料集でしか目にしたことのないものが目の前にあることには、ただただ感動でした。今回のフィールドワークを生かして、今後の学習や研究をアクティブな姿勢で進めていこうと思います。

引率教員のコメント 氣賀澤保規（アジア史専攻）

このたびの関西（京都・奈良）フィールドワークでは、東アジアの歴史に関わる多くの遺跡や建造物や文物（文化財）を見学、調査しました。それらは一般の旅行ではなかなか目にできないものであり、改めて日本の歴史に占める東アジアの影響の大きさが実感できたと思います。

歴史を生み出したその場に立ち、また先人の営みに思いを致し、その世界をまるごと身体で受け止めてみることは、歴史を学ぶものにとって大変重要なことです。しかも同じ仲間と行動をともにしながら、楽しく自由に議論をし、自身の頭で考えることは今後貴重な体験としてのこるはずです。

私どもアジア史専攻では、このような現場主義を大切にし、一級の文物に触れるなかで良質な歴史感性を養い、元気で優れた歴史学徒を育成していきます。これからも機会を見れば外に飛び出していきます。

（以下にフィールド参加者集合写真を掲示します）



2009年9月18日 京都・東寺五重塔前で（日本最大の木造古塔）



2009年9月18日 京都・平安神宮の前庭にて（本殿は平安京大内裏の朝堂院を模す）



2009年9月19日 奈良・東大寺の大仏殿前にて



2009年9月20日 奈良・橿原考古学研究所附属考古学博物館の中庭（埴輪を戯れる）



2009年9月20日 奈良・橿原の飛鳥資料館の前庭、古代石像を前にして